

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される生活系（可燃）ごみ、事業所などから排出される事業系（可燃）ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

2. 調査実施内容

① 生活系ごみ

- 【実施日】 平成27年11月30日（月）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【試料採取地域】 東地区（末広2丁目）
- 【集積所の形態】 ステーション方式（町会等）、ステーション方式（集合住宅）、毎戸方式
収納枠（実証実験中）
- 【備考】 収納枠形式
- 【可燃収集曜日】 月曜・木曜
- 【想定条件】 住居地域
- 【採取量】 201.2kg（集積所2か所分、収納枠（大）4個分）
- 【気温（平均）】 4.8℃
- 【収集時間】 15分

② 事業系ごみ

- 【実施日】 平成27年11月25日（水）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【想定条件】 任意の搬入車両1台を調査
- 【採取量】 209.2kg（塵芥車1台積載量の4分の1程度）
- 【気温（平均）】 2.5℃

3. 調査手順

（1）試料の回収

① 生活系（可燃）ごみ

調査対象の集積所から市職員がごみを回収し、指定の場所に搬入する。

② 事業系（可燃）ごみ

中間処理施設へ持ち込まれたごみを施設担当職員の誘導のもと、指定の場所に搬入する。

（2）分類及び重量の記録

搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

第2章 調査結果

① 生活系（可燃）ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

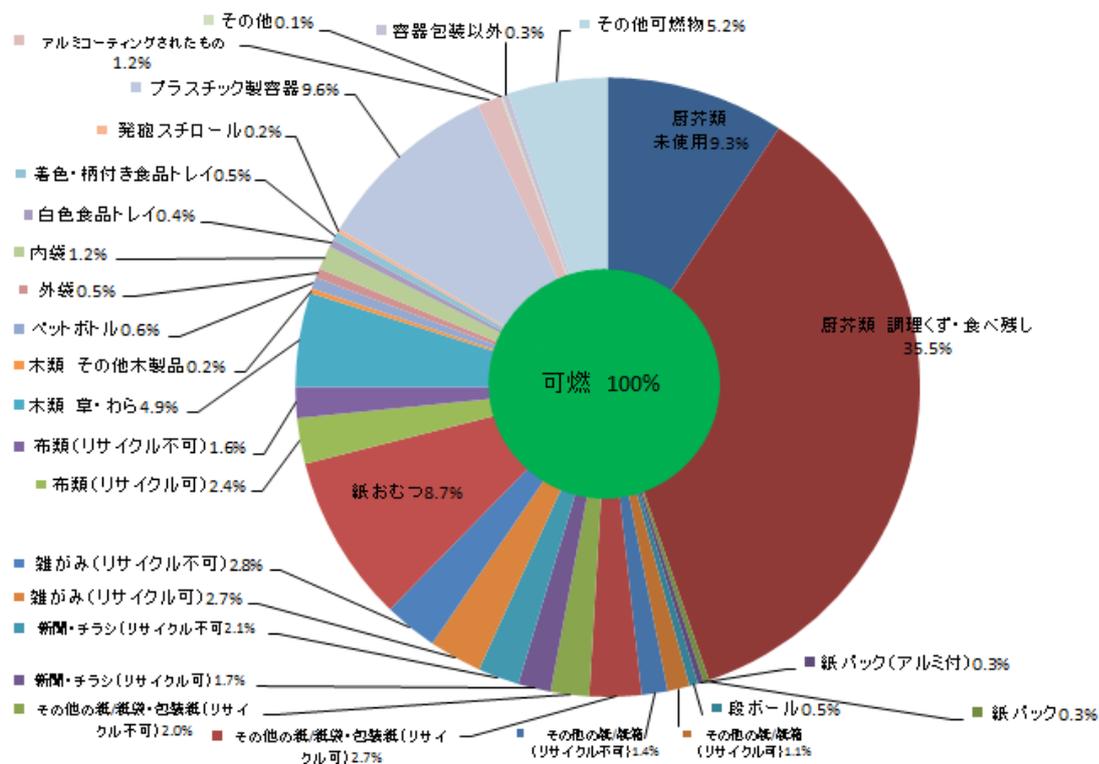
重量比で10%以上の大分類の組成項目は「厨芥類」（44.8%）、「紙類」（26.3%）「プラスチック類」（14.6%）の3種であり、全体の約85.7%を占めていた。

個別にみると、厨芥類「調理くず・食べ残し」（35.5%）の構成割合が高かった。

その他10%以上の分類はなく、プラスチック「プラスチック製容器」（9.6%）、厨芥類「未使用」（9.3%）、紙類「紙おむつ」（8.7%）の順である。

全体の傾向としては、「厨芥類」の排出割合が高く、「段ボール」の排出割合が低かった。「段ボール」については、適切に分別がなされていると考えられる。また、住居地域という条件も関係してか、「紙おむつ」の構成割合が高かった。

その他、収集時間については、毎戸収集地域であった9月調査分より大幅に短縮（29分短縮）しており、毎戸収集地域に収納枠を活用していくことは、収集効率の面で一定の効果があることが示された。



② 事業系（可燃）ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で10%以上の大分類の組成項目は「厨芥類」（48.3%）、「紙類」（27.7%）、「プラスチック類」（17.15%）の3種であり、全体の約93.15%を占めていた。

個別にみると厨芥類では「未使用」（26.0%）、「調理くず・食べ残し」（22.3%）、プラスチックでは「プラスチック製容器」（10.1%）の構成割合が高かった。

全体の傾向としては、厨芥類「未使用」、「調理くず・食べ残し」、段ボール「紙類」や、プラスチック「白色食品トレイ」、「プラスチック製容器」の排出割合が高く、それぞれ袋ごとに分別がなされていたことから、収集運搬許可業者への更なる分別意識の周知徹底が必要と思われる。

